

組織的な不登校対応について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学校 1 年生の途中で転入してきたが、人間関係に不安を抱え中学校 2 年生の途中まで全く登校できずにいた。当該生徒は、学習意欲は高く、どのような状況でも学ぶことができる仕組みを学校組織として、構築することが必要であると考え、学習改善に取り組んだ。

具体的な取組

○魅力ある学校作りの促進

全ての生徒が「分かった」という充実感を得ることができる授業を全教員が実施できるようになれば、魅力ある学校に近づくと考え、教員同士が授業力向上のために研鑽できる機会を設定した。教員を 3 人 1 組のグループに分け、共通の授業評価項目を用いて授業参観を相互に行った。

○校内に教育支援センターの設置

教員がすぐに生徒対応ができるように職員室の隣の教室を校内の教育支援センターとした。元々教室で使用していた場所であるため、不登校生徒に配慮して、他の生徒等の目を気にせず学習できるように廊下側の窓に目隠しを設けるなどの工夫をし、落ち着いて学ぶことができる環境を整備した。

○いつでも登校して、学習できる仕組み作り

教員の時間割の中に別室担当の教員をあらかじめ配置しておき、いつ生徒が別室に登校しても対応できる仕組みを作った。授業時数が少ない教員を中心になるべく負担が均等になるように配置するなど工夫した。様々な教科の教員が関わることになる利点も生まれた。

○不登校の兆候が出た際の迅速な対応

欠席者にはその日のうちに電話連絡を必ず行い、欠席が 2 日連続した場合は対応している。欠席生徒が電話以外にも相談しやすいようにオンラインを活用した。SC、SSW、教育支援センターなどの外部専門家とつなぎオンライン相談や家庭訪問なども行った。

成果

取り組みを始めた 6 月から当該生徒は、ほぼ毎日登校できている。不登校出現率が昨年度の 8.21% から 4.52% に減少した。新規の不登校出現率が昨年度の 5.64% から 1.51% に減少した。

課題

学校内外による指導を受けていない生徒を 0 人にするために、校内の組織において、適切にアセスメントを取ることが課題である。